

蒼穹ニタース

No.4

平成 24 年 8 月 16 日発行



800m で得点し、部を牽引した主将水元

目次

1. 主 将 ・ 監 督 挨 拶
2. 七 大 戦 総 合 成 績
3. 七 大 戦 詳 細
4. 七 大 戦 記 録

主将挨拶

8月4、5日に福岡県博多の森にて七大会が行われました。京都大学は男女ともに七大会での優勝を目指しましたが、男子は東北大に2.5点差で逃げられ2位に、女子は1、2位と1点差で3位というとても悔しい結果に終わりました。

これまで七大会優勝に向け部員全体で練習を重ねて参りました。1500、5000で2冠をした横山(3)や両りレーでの優勝のようにしっかりその成果を発揮できた選手も多くいましたが、優勝に向けて甘いところがあったのだろうとしっかり反省しなければなりません。

2ヶ月後の東大会が控えます。今年は東大も強いので、去年のようにいくとは思わず、各自がこの悔しさをバネにより一層努力を重ね、必ず優勝を勝ち取ります。

蒼穹会の皆様には、猛暑の中でしたが本当に多くの方に足を運んでいただき、応援・激励していただき、本当にありがとうございました。今後とも変わらぬご支援、ご声援のほどよろしくお願ひします。

京都大学陸上競技部主将 水元 惟暁

女子主将挨拶

先日九州博多の地で行われました七大会において、女子は昨年同様総合3位という結果に終わりました。しかし昨年とは異なり、1、2位の名古屋大、大阪大とは1点差という大接戦となりました。全員が「自分があともう少し頑張れば」と思ったことと思います。しかし、この1点を悔やむばかりではなく、接戦の中全員で勝ち取った総合3位という結果を誇りに思っしてほしいと思います。今回惜しくも得点できなかった高跳びの中尾、幅跳びの宮崎に関しては、どちらも大舞台で自己記録を更新し、来年の活躍が期待されます。トラック優勝の実力フィールドの力が加われば、来年は必ずや優勝を達成してくれることでしょう。

さて、七大会は終わりましたが、9月末から関西女子駅伝、東大会が控えています。関西女子駅伝はぎりぎりの人数での出場となりますが、本年は着実に力をつけております。東大会は7連覇がかかった試合です。七大会でフィールドの強さを発揮している東大に隙を見せることなく勝利を目指して参ります。

この度は、厳しい暑さの中非常に多くの蒼穹会の方々に足を運んでいただき、ご声援が力になりました。大変感謝しております。残念ながら本年、優勝をお見せすることは叶いませんでしたが、発展途上にある女子チームに今後ともどうかご支援、ご声援を送ってくださいますよう、よろしくお願ひいたします。

京都大学陸上競技部女子主将 岩橋 優

監督挨拶

去る8月4日・5日、博多の森陸上競技場にて七大会が開催され、京都大学は男子2位、女子3位という結果になりました。男女とも優勝を目指して精一杯戦いましたが、男子はわずか2.5点、女子もわずか1点の差で優勝を逃しました。

今大会、男子の優勝に向けての最大のライバルは大阪大であると考えておりましたが、東北大が予想を大きく上回る得点を挙げ優勝しました。私自身、大会序盤に阪大の調子が上がってこないことで優勝が近づいたように感じ、油断してしまいました。非常に反省しております。一方、選手それぞれの成績を見ると、横山裕(3)の2種目制覇や両りレーの優勝など、すばらしい活躍がありました。今大会反省点は多いものの、あれこれ後悔しているだけでは前に進めません。京大陸上部の部員はまだまだ大きな可能性を秘めております。今回のこの非常に悔しい結果を更なる成長の糧とし、来年大阪にて8年ぶりの優勝を成し遂げて欲しいと思います。

女子は名大、阪大に破れ3位となりました。優勝を目標に戦い1点差で敗れたことは、非常に悔しい結果ではありますが、優勝を目標に掲げることもできていなかったこれまでと比べ、間違いなく強いチームになっていると言えます。男子に比べて選手の数は少ないですが、一人一人が強い向上心を持って競技に取り組むことでチームとしても大きく成長し、来年こそは優勝を果たしてもらいたいと思います。

蒼穹会の皆様も、今年こそは優勝を、と期待して下さっていたことと思います。ご期待に沿えず申し訳ありません。七大会は終わりましたが秋には東大会があります。七大会の結果からも東大会は非常に手強い相手ではありますが、なんとしても3年連続の男女アベック優勝を成し遂げ、皆様の応援に報いたいと思います。

今大会も多くの蒼穹会の方々に応援に駆けつけていただきました。誠にありがとうございました。今後ともどうか変わらぬご支援・ご声援のほど、よろしくお願い申し上げます。

京都大学陸上競技部監督 前田 峰尚

七大戦総合成績

(8/5 博多の森競技場)

第 63 回全国七大学対校陸上競技大会 対校得点

1 位	東北大学	90.5 点	(T 37 点 F 53.5 点)
2 位	京都大学	88 点	(T 71 点 F 17 点)
3 位	東京大学	73.5 点	(T 42 点 F 31.5 点)
4 位	大阪大学	64 点	(T 17 点 F 47 点)
5 位	名古屋大学	39 点	(T 26 点 F 13 点)
6 位	九州大学	36 点	(T 33 点 F 3 点)
7 位	北海道大学	7 点	(T 4 点 F 3 点)

第 23 回全国七大学対校女子陸上競技大会 対校得点

1 位	名古屋大学	15 点	(T 11 点 F 4 点)
2 位	大阪大学	15 点	(T 8 点 F 7 点)
3 位	京都大学	14 点	(T 14 点 F 0 点)
4 位	東北大学	13 点	(T 10 点 F 3 点)
5 位	東京大学	11 点	(T 0 点 F 11 点)
6 位	北海道大学	9 点	(T 5 点 F 4 点)
7 位	九州大学	3 点	(T 2 点 F 1 点)

七大戦詳細

棒高跳 決勝

清水 宏幸 (4) 4m00 6位

岡田 洋 (2) 3m80 PB

矢澤 学 (4) 記録なし

今年OPと同日に行われた棒高跳。かなり強い風が吹いている中行われた。棒高跳を始めてまだ1年も経っていない矢澤は、かなりスピードに乗れていたがそれが高さに変えられず惜しくもNMに終わってしまった。今1番調子のよい岡田は、3m80 までを1回で跳び余裕でPBを更新。4mにも果敢に挑戦してくれた。清水は4mを1回で跳ぶとさすが副将というところを見せてくれた。4m20 は残念ながら失敗に終わったが京大に大きな大きな得点を持ち帰ってくれた。初日の棒高跳の試合はかなり京大をわかせるものとなり、2日目のチームに勢いを与えてくれた。(中尾)

3000mSC 決勝

不破 佑太 (4) 9.38.69 3位

荒木 伸哉 (3) 10.03.07

この種目には四回生の不破、三回生の荒木が出場した。朝一のレースだったが気温が高く選手にとっては少し厳しい条件であった。前半は二人ともいい位置につけており、1000m あたりで荒木が一度先頭に立ったが1500mを過ぎたあたりで少し荒木が遅れ始めた。不破はそのまま上位をキープし、東北大勢には先を許したものの3位と健闘した。荒木は一度後退したがそのあとは粘りの走りを見せた。気温に負けないほどの熱いレースであった。(阿部)

女子 400m 予選

加奈山憲代 (4) 62.00

釜谷美翔子 (3) 62.49

400 予選には、今年も加奈山と釜谷が出場した。バツ

クストレートでの向かい風が非常に強い、過酷なコンディションの中でレースが行われた。加奈山はまずまずのスタートをきったが、後半で十分にはスピードに乗り切れなかったようだ。予選は無事通過した。釜谷は強い風の中、安定した走りを見せてくれた。前半のペースを保ち、二着でフィニッシュ。決勝では両者の好走・得点を期待している。(豊本)

400m 予選

庄司 真 (2) 50.08

辻 智彦 (1) 50.68

長谷川 聡 (4) 51.31

昼前の日差しが出てきた中、400m 予選は行われた。1組の庄司は、前半 200m は抑えぎみで入り、後半に見事なギアチェンジで1位にまで順位をあげ、余裕を見せての決勝進出となった。2組の長谷川は、前半の入りかたはよかったものの、後半で思ったように粘れず、惜しくも決勝進出はならなかった。3組の辻は、1回生ながら出場したが、緊張していたのか終始固い走りをしており、後半で粘りを見せたが、決勝進出はならなかった。(猪原)

女子 走高跳 決勝

中尾 優里 (2) 1m50 5位 PB

走高跳には中尾が出場。1m35、1m40、1m45 を一本それぞれで成功し、自己ベストとなる1m50に挑戦。一本目は動きに固さが出て失敗。しかし、二本目で見事成功し1m50の壁を破った。練習でもまだ成功のない1m53にはあと一步及ばず。ここ数ヶ月の記録の伸びには目を見張るものがあるので、これからが楽しみである。(扇澤)

走幅跳 決勝

西村 優汰 (3) 7m65(+3.8) 1位

山田 健太郎 (1) 6m80(+2.5) 6位

巽 浩之 (3) 6m67 (+2.0)

男子走幅跳決勝では西村(3)、巽(3)、山田健太郎(1)が出場した。当日は追風が強く吹いており、全体的に好記録が多い試合となった。各選手が3本目の跳躍を終えた時点で、西村が7m18で1位、山田が6m76で2位でベスト8進出、巽は6m67で9位と惜しくもベスト8進出はならなかった。西村は一本目に記録を残したのち、大記録を狙っていたのかファールが連続した。そして最終6本目に、追風参考ながら7m65と群を抜いた記録を出し、堂々の1位を勝ち取った。山田も6m80を跳び、混戦の中で6位となり、得点圏に食い込んだ。結果、男子走幅跳では京都大学は7点を取った。(俵谷)



走幅跳3連覇を達成した西村

円盤投 決勝

神野 洋介 (3) 28m50 PB
山本 裕太 (1) 27m56
林 真幸 (3) 25m73 PB

今年の男子円盤投げは強い向かい風の中行われた。山本は一回生であるが一投目から27m56で、記録は不十分ではあるが今後のさらなる成長が期待できる。林は一投目、二投目ともに26mを超えられず、三投目はファールで終わった。神野は最初の二回は22mと低迷していたが三投目に28mを出した。三選手の活

躍は以上の通りであるがやはり30m台を出せなかったため、東北大をはじめとする他大の選手に圧倒され、全選手予選敗退・無得点という残念な結果となった。(南日)

110mH 予選

戸川 洋一 (2) 15.08(+1.1) PB
栗林 健一 (3) 15.31(+0.6)
牧川 真央 (3) 15.48(+1.8)

男子110mH予選には戸川、栗林、牧川が出場した。1組目では戸川が自身の持つ記録を上回る走りを見せ、3着で記録により決勝進出を決めた。2組目、栗林はレース序盤はトップを走り、終盤でスピードの低下が見られたものの2着で決勝進出。牧川は何度かハードルに足をぶつけたものの持ち前のスプリント力を生かし、2着で決勝進出を決め、3人とも決勝に駒を進めた。(長崎)

女子100m 予選

釜谷美翔子 (3) 12.82(+3.1)
熊澤 真奈 (2) 13.22(+2.1)

女子100mには釜谷、熊澤が出場。午前中であるがかなり気温が高かった。熊澤は出遅れることなくスタートを切ると、中盤にかけて良い加速を見せる。しかし内レーンの選手達の後半の伸びにはかなわず、予選通過はならなかった。釜谷はスタートから中盤にかけて競り合う展開であったが、後半に頭一つ抜け出すと、そのまま余裕の1着フィニッシュ。決勝に向け良いレースを形作った。(鈴木)

100m 予選

牧川 真央 (3) 10.63(+5.1)
眞武 俊輔 (4) 11.04(+1.6)
石田 真也 (1) 11.06(+1.8) CB

断続的な追い風の中での100mには、牧川、石田、

眞武が出場した。1組目を走る牧川はスタートから前に出ていき。難無く1着でフィニッシュした2組目には初めての対校戦となる石田が出場、最後まで粘るも3着で惜しくも決勝を逃してしまった。最終組には期待のかかる4回生の眞武、東大の選手を追う形で2着でレースを終えた。牧川と眞武には決勝に、石田には今後の活躍を期待したい。(橋本浩法)

1500m 決勝

横山 裕樹 (3) 4.01.29 1位
平井 健太郎(1) 4.01.49 2位
水元 惟暁 (4) 4.13.81

水元と横山裕と平井健が出場。序盤、時折吹く強風にも関わらず好調な平井健が集団を牽引。800m付近から先頭を奪った東北勢に横山裕が余裕を持って食らい付く。ラスト500から横山裕がアクセル全開、トップに躍り出る。一時後続をちぎりラスト追い付かれそうになりつつも横山裕は渾身のスパートで見事逃げ切り優勝。また、中盤後退するも諦めずに集団に付いていた平井健はラスト100mからの怒涛のラストスパートで猛然と横山裕に迫り準優勝。主将水元は粘りのある走りを見せてくれたが惜しくも入賞を逃した。



1500m,5000m の2冠を達成した横山裕樹

走高跳 決勝

菅原 知紘 (3) 1m95 4位
山岡 隆央 (1) 1m85
山田 健太郎(1) 記録なし

走高跳には山田、山岡、菅原が出場。山田は直前の走幅跳によるアップ不足と疲れもあり1m70を失敗。山岡は始めの1m70を難なくクリア。1m75を二度失敗するも、一本ずつ本来の動きを取り戻し三度目で成功。1m80を一本でクリアし、自己ベストとなる1m85を三本目で成功し勝負強さを見せた。菅原は1m85を一本で跳ぶも普段の動きをなかなか出せず1m90は二本目で成功。1m95も二本失敗したが、一本ずつ修正を加え三本目を成功。1m98でも回数を重ねるごとに良くなっていくもバーを超えることができず、1m95での失敗が響き悔しい結果となった。今回の悔しさをバネさらなる成長に期待したい。(扇澤)

砲丸投 決勝

山本 裕太 (1) 10m96 5位
神野 洋介 (3) 10m22 PB
戸川 洋一 (2) 10m08

砲丸投には神野、戸川、山本が出場した。神野は調子の良くない日々が続いていたが、復調の兆しが見られており、2投目には自己ベストを上回る10m22を記録した。戸川はベストに迫る記録を残すも、決勝に進出することは出来なかった。山本は2投目、3投目に10m50を超え決勝に進み目標の12m超えも期待されたが、惜しくも決勝では良い結果を残せなかった。今後も、彼らが納得のいく結果を残せるよう励んでほしい。(大畑)

女子砲丸投 決勝

熊澤 真奈 (2) 7m42 8位
宮崎 伶菜 (2) 6m99

女子砲丸投には熊澤、宮崎が出場。両名とも専門で

はないが、普段の練習の中で何とか時間を作って練習してきた。熊澤は一投目にファールしたが、その後修正しベスト8に進出。4投目でも記録を伸ばし、8位となった。宮崎は記録を伸ばしていくことはできなかったが、しっかり練習してきたことを窺わせるような綺麗な投擲を見せてくれた。両名とも多種目出場の忙しさの中、かなり健闘したといえる内容であった。(鈴木)

400m 決勝

庄司 真 (2) 50.59 4位

男子400m決勝は、30度を越える炎天下の中バックストレートに常時強い向かい風が吹くという悪条件下で行われた。決勝に進んだ庄子は4レーンからのスタート。前半、緩やかな立ち上がりを見せた庄司は外側の選手に先行されるものの、後半、コーナーに差し掛かると怒濤の追い上げを見せる。猛追は先頭を争う3選手には届かなかったが、4位入賞を果たした。(梶原)

110mH 決勝

栗林 健一 (3) 15.13(+2.9) 6位

牧川 真央 (3) 15.14(+2.9) 7位

戸川 洋一 (2) 15.21(+2.9) 8位

110H決勝は栗林、牧川、戸川の3人全員が出場した。追い風という好条件の中、中盤までは3人とも5~8位あたりをほぼ一直線で走っていた。そこから持ち前のハードリングの上手さを見せ栗林が少し抜け出して6位。牧川は何台かのハードルにぶつけてしまい、持ち前のスプリント力を上手く生かすことができなかった。戸川は砲丸投げの試技中ということでハードであったと思われたがハードル間を上手く刻んでいくことができた。全体として決勝に3人残ったが得点1点と少し残念な結果に終わった。やはり14秒台を出すことが必要なのだろうか。(佐藤)

女子 100m 決勝

釜谷美翔子 (3) 12.88(+2.3) 2位

上位入賞の期待が高まる中行われた。スタートに遅れはなく、加速から疾走への切り替えもスムーズであった。2位争いの中一瞬走りに固さが見られたがすぐにリラックスを取り戻し、3位を引き離した。追い風参考ながらも決勝での記録は12秒台の確実な力を証明したと言えよう。この調子で今後の対抗戦や来年の七大戦に向けて頑張ってもらいたい。(田中智章)



100mで2位となった釜谷。今回も多種目にわたり活躍してくれた。

100m 決勝

牧川 真央 (3) 10.80(+2.0) 4位

眞武 俊輔 (4) 11.08(+2.0) 7位

男子100m決勝には京都大学から眞武(4)と牧川(3)が出場した。予想ランキングでは1位だった牧川は他種目の出場と直前に110mハードルの決勝を走り終えたことから疲労のためか、普段通りの動きができずに他の選手と横一線の戦いとなり、10”80で4位となった。また、眞武はふくらはぎの怪我が回復してからまもなくの試合で、思うような走りができずに序盤から遅れをとってしまったため7位という結果に終わった。(俵谷)

女子 800m 決勝

岩橋 優 (4) 2.14.78 1位

加奈山憲代 (4) 2.20.69 3位

女子 800m には岩橋と加奈山が出場。岩橋は最初からいい位置で走り、1周目を66秒後半で通過。2周の200m 過ぎに2位の垂由子に差をつけ、さらに広げてゴール。加奈山は最初にポケットされたが、150m あたりで抜け出し、2周目の最初に3番目の人をかわして接戦をし、ラスト100過ぎのスパートで3位でゴール。表彰台2人を京大が占めるという本当に素敵な結果と感動をもたらした。(加藤)



800m を制した女子主将岩橋

800m 予選

水元 惟暁 (4) 1.58.26

櫻井 大介 (1) 1.59.40

中井 一宏 (2) 1.59.65

男子 800m 予選はそれぞれの組に櫻井、水元、中井が出場した。櫻井は序盤からレースを引っ張り、決勝に余力を残すためにスローなレース展開をし、ラストには鋭いスパートで無難に一着でゴール。水元も同様にレースを引っ張った。ラスト300m から東大の選手がスパートをかけてきたがしっかり反応してラストを逃げ切り1着でゴール。中井は無難にスタートし、強風をうまく避けながら一周目はスパートをかけるタイミングを伺いながら集団で走っていた。第1コーナー中央付近からスパートをかけ首位にたつとそのまま一着で

ゴール。3人とも決勝につながるいいレースができた。(市川)

400mH 予選

戸川 洋一 (2) 55.93

蔭山 凌 (2) 55.94

堀江 一司 (3) 57.32

少し風が出てきたところに400mH 予選は行われた。戸川は、110mH と砲丸投げの疲れを見せないような安定したハードリングで、自己ベストに迫る走りをして予選を突破した。蔭山は、400m の走力を生かし、ハードリングも安定しており、予選を突破した。堀江は、前半は余裕を持ったペースで入り、後半でしっかりと上げて予選を突破した。この種目で3人とも決勝進出を決めたことは、あとの種目にも勢いを与えただろう。(猪原)

女子 走幅跳 決勝

宮崎 伶菜 (2) 5m21(+2.7) 5位

中尾 優里 (2) 4m10(+4.0)

容赦ない日差しと追い風の中行われたこの競技には中尾と宮崎が出場した。中尾は練習量の少なさゆえか助走が上手くいかず、順位は13位となった。宮崎は得意の追い風の中、公認で5m07を跳び、調子が戻ったことが伺えた。その後ベスト8で力を尽くすもセカンド記録で5位、残念ながら得点にはあと一歩及ばなかった。(田中智章)

やり投 決勝

山本 裕太 (1) 50m30 PB

若園 直樹 (1) 46m89

男子やり投げには若園、山本の2人が出場した。この日は強い向かい風であり若園は向かい風は少し苦手らしく目標の50mを超えることはできなかった。しかし次こそは最低でも50mは超えると強く意気込んでい

たので期待したい。山本は円盤、砲丸に次ぐ3種目目ということもあり少し疲れも見られた。しかしそれでも50mを超える投擲を見せてくれた。しかし結果は9位と惜しくも8位までに入ることはできなかった。(佐藤)

200m 予選

水上 裕介 (3) 22.18(+1.5)
牧川 真央 (3) 22.29(+2.8)
塚原 和明 (3) 22.38(+2.3)

午後の部短短最初の種目となる男子 200m 予選には、牧川、水上、塚原が出場した。1 組目、牧川は序盤からトップをとり、スプリント力の高さを見せた。ラストはやや早い位置から流しはじめ、難なく 2 着で決勝に駒を進めた。水上はストレートに入ってからもトップを維持、予選ながら動きのいい走りでも決勝進出を決めた。3 組を走る塚原はこの大会に向けて調子を上げており、その成果を十分に発揮する 2 着で予選を通過した。(長崎)

女子 3000m 決勝

田中 友理 (3) 10.15.84 4 位 PB
岩橋 優 (4) 10.49.76 7 位

暑さが最も厳しい時間に始まった女子 3000m 決勝は、800m で優勝を果たした岩橋とこの種目に勝負をかける田中が出場。レース序盤、名大の鈴木が先頭に立ち、岩橋が第二集団を引っ張り、田中はそれに付く形となる。しかし、2000m 通過あたりになると、岩橋が集団から離れ始め、田中が集団に食らいつく。そして田中はラストの接戦の中、見事 4 位でフィニッシュ。岩橋はペースを落としてしまったが、最後まで粘りの走りを見せた。田中が PB で勝ち取ったこの 1 点はチームにとって大きな弾みとなった。(岡野)

4×100mR 決勝

1 位 41.63
[水上 裕介-神谷 諒介-牧川 真央-石田 真也]

走順は水上、神谷、牧川、石田であった。号砲とともに水上が勢いよく飛び出し、周りとの差をぐんぐん広げスムーズに 2 走の神谷にバトンパス。神谷はバックストレートに吹く強い向かい風をもろともせず後続を引き離し、牧川とのバトンパスは少し遠かったものの大きなリードを作った。牧川は周りを全く寄せ付けず安定した走りですらに引き離しこちらのバトンも遠くなってしまったものの 1 位でアンカー石田にバトンパス。石田は前半でしっかりとスピードに乗り、後半は粘りの走りでも他大学の追い上げを振り切って 1 位でゴールした。残念ながら大会記録更新とはならなかったものの、非常に盛り上がり、京大が勢い付くレースであった。(林大祐)

三段跳 決勝

西村 優汰 (3) 14m75(+1.6) 2 位
菅原 知紘 (3) 13m73(+2.5) 8 位
山岡 隆央 (1) 13m65(+2.3)

天候に恵まれた男子三段跳には菅原、西村、山岡が出場した。菅原、西村は両者とも 13m70 を超える安定した跳躍で決勝に進出した。山岡は 1 回生ながら 13m 後半にのせるジャンプを見せたが惜しくも決勝には進めなかった。決勝では菅原はいい跳躍を見せるも惜しくも記録をのばせず 8 位であった。西村は 5 本目に 14m75 の大ジャンプ。このまま走幅跳との二冠かと思われたが、阪大の最終跳躍者、中野にその記録を上回る記録を出され惜しくも 2 位に終わった。(山田健太郎)

ハンマー投 決勝

林 真幸 (3) 35m41 8 位
神野 洋介 (3) 22m75 PB

男子ハンマー投には、林真幸(3)、神野洋介(3)の 2 名が出場した。暑さに加えて、投擲最終種目で各人疲れが目立っていたものの、神野は自己新を出し、林が

8位通過で決勝に残った。林は5投目で自身のベスト記録に迫る 35M41 を残したが、上位の選手には惜しくも届かず、競技を8位で終了した。林は現在、2回転から3回転に回転数を増やしている段階である。今後、3回転投法を確立させて、これ以降の試合で40M以上の記録を期待したい。(山本)

400mH 決勝

戸川 洋一 (2) 55.76 4位
蔭山 凌 (2) 56.10 6位
堀江 一司 (3) 57.28 8位

3名が決勝に進んだ400mH。戸川は2台目あたりで内側の東北大・千葉にとらえられるが、そこで急に乱れはせず、順当に後半へ。ラストでは後続が迫ってきたが、振り切り4位となった。蔭山は序盤から厳しい展開となったが、前を行く堀江を追いかけ、粘りの走りを見せる。ラストで怒涛の追い上げを見せ、貴重な得点をもぎとった。堀江は終始華麗なハードリングを見せたが、ケガの影響もあってかいつものような伸びを見せることはできず、残念ながら8位となってしまった。高気温の中400mHという過酷な競技に挑んだ3人の姿は、京大勢に頑張る気力を与えたであろう。(鈴木)

女子 400m 決勝

釜谷美翔子 (3) 60.22 3位
加奈山憲代 (4) 62.58 7位

予選時よりは風はおさまっていた400決勝には、二人とも出場。釜谷は序盤から好調な走りを見せ、トップでホームストレートに入り、そのまま1着ゴールするかと思われた。ところが残りわずかというところで失速し2人に追い抜かれてしまい、惜しくも3位となった。加奈山はスタートから追いかける展開であった。精一杯の走りを見せてくれたが、結果として得点を得ることはできなかった。両者とも、非常に悔しい結果となってしまった。(豊本)

800m 決勝

櫻井 大介 (1) 1.57.42 1位
水元 惟暁 (4) 1.57.76 2位
中井 一宏 (2) 1.58.58 5位

800m 決勝には水元・中井・櫻井の3人が駒を進めた。まず水元が先頭に出て、2位で中井、3位で櫻井が続いた。400m 過ぎに中井が先頭に出たが、600m 付近で水元が再び抜き返した。最終的にはラスト100mで圧倒的なスパートをかけた櫻井が優勝した。水元は高森(東大)とのスパート合戦を制して2位となり、主将としての意地を見せた。中井はラストで競り負けたが5位に入った。3人で終始レースを支配し、京大中距離の実力の高さを示す結果となった。(下迫田)



1回生ながら800mを制した櫻井

200m 決勝

牧川 真央 (3) 21.92(+3.1) 2位
水上 裕介 (3) 21.96(+3.1) 3位
塚原 和明 (3) 22.32(+3.1) 6位

牧川、水上、塚原の3名が出場した。牧川は7本目の最後のレースで疲れがピークに達しているためかトップに差をつけられ曲走路で集団から抜け出せなかったが、直線で粘って2位を勝ち取った。水上はスタートで先行されるものの落ち着いて走り牧川と競って3位だった。塚原は眞武の怪我の影響のため出場となったが、しっかり決勝まで残り好きな外側レーン

で風の影響を受けつつも前半から自分の走りをして6位に食い込んだ。決勝に3人残り全員得点し、さらに表彰台に2人上るという京大短距離の層の厚さを感じさせるレースであった。(林大祐)

5000m 決勝

横山 裕樹 (3) 15.00.01 1位
平井健太郎 (1) 15.00.63 3位
平井 幹 (3) 15.43.05

真夏の強い日差しの下、5000mには平井(幹)、横山(裕)、平井(健)の3人が出場した。横山(裕)と平井(健)は1500mに続く2種目であったが、レース中盤から先頭を交代で引っ張り、積極的にレースを支配した。残り1周の時点で先頭集団は5人となり、横山(裕)が追いついてきた名古屋大の選手に意地で勝ち抜き優勝。1500mに続き二冠を達成した。平井(健)はその後にゴールし、3位となった。平井(幹)は序盤から上手く先頭についてゆくことができず、苦しいレース展開となり、ラスト1周でスパートをかけるも9位に終わった。(松葉)

女子 4×100mR 決勝

3位 50.81

[宮崎 伶菜-熊澤 真奈-加奈山憲代-釜谷美翔子]

女子4×100mRは宮崎→熊澤→加奈山→釜谷という走順であった。スタートと同時に1走宮崎が好スタートを切る。宮崎はそのままいい走りを見せ、他大より少し早いタイミングで2走熊澤に渡す。熊澤は周りの速い選手にくらいついて走り、3走加奈山に渡す。加奈山はこの試合、800、400に続いて三種目目であったが、その疲れを見せることなくコーナーを走り4走釜谷へバトンパス。3、4位で受け取った釜谷は100で2位に入賞した実力をみせつけ、3位でゴールした。(石田)

4×400mR 決勝

1位 3.21.11

[花岡 洋祐-辻 智彦-森 裕貴-庄司 真]

トラックの部最終種目となった4×400mR。いつもの3人に加え、今回は新星の辻が出場した。1走花岡はやはりベテランということもあり、終始安定した走り。ラストでしっかり上位に上がり、そのまま辻にバトンを託す。2走辻はバックストレートで一旦集団に飲み込まれたが、ラストでもの凄い追い上げを見せ、トップ付近で森へバトンパス。3走森も辻と同じようなレース展開を見せ、最後は追いついて3位あたりでアンカー庄司にパス。庄司はいつも通り前半を抑えて入り、勝負の後半に突入。追いついてトップに立つと、そのまま後続を振り切り1位でフィニッシュ。トラックの部を最高の形で締めくくった。(鈴木)



見事優勝を達成したマイルメンバー

七大会男子記録

100m(+2.0)

1	春日 慶輝	東京大	10.77
2	宮崎 孝	九州大	10.77
3	真木 伸浩	東京大	10.79
4	牧川 真央	京都大	10.80
5	後藤 寛明	名古屋大	10.84
6	吉田 祐貴	九州大	10.92

200m(+3.1)

1	真木 伸浩	東京大	21.47
2	牧川 真央	京都大	21.92
3	水上 裕介	京都大	21.96
4	後藤 寛明	名古屋大	22.04
5	春日 慶輝	東京大	22.21
6	塚原 和明	京都大	22.32

400m

1	大澤 涉	東京大	49.51
2	高橋 勇理	大阪大	49.61
3	山下 康平	九州大	50.06
4	庄司 真	京都大	50.59
5	南 共哉	東北大	50.83
6	秋本 耕作	大阪大	50.95

800m

1	櫻井 大介	京都大	1.57.42
2	水元 惟勝	京都大	1.57.76
3	高森 一	東京大	1.57.79
4	大野 良輔	東北大	1.58.28
5	中井 一宏	京都大	1.58.58
6	松山 真也	大阪大	1.59.75

1500m

1	横山 裕樹	京都大	4.01.29
2	平井 健太郎	京都大	4.01.49
3	菅野 均	東北大	4.01.79
4	酒井 健	大阪大	4.02.92
5	三上 和樹	東北大	4.04.33
6	福島 洋佑	東京大	4.05.42

5000m

1	横山 裕樹	京都大	15.00.01
2	池亀 透	名古屋大	15.00.06
3	平井 健太郎	京都大	15.00.63
4	矢野 祥一	名古屋大	15.03.03
5	中島 涼輔	九州大	15.03.48
6	酒井 健	大阪大	15.20.87

110mH(+2.9)

1	森永 侑樹	九州大	14.73
2	上松 祐太	東京大	14.74
3	赤羽 巧	名古屋大	14.80
4	後藤 佑介	大阪大	15.03
5	鈴木 久崇	北海道大	15.10
6	栗林 健一	京都大	15.13

400mH

1	千葉 優人	東北大	53.22
2	藤木 碧	九州大	54.06
3	上松 祐太	東京大	54.31
4	戸川 洋一	京都大	55.76
5	森永 侑樹	九州大	55.97
6	蔭山 凌	京都大	56.10

3000mSC

1	深渡 慎一郎	東北大	9.28.50
2	尾形 翔平	東北大	9.31.43
3	不破 佑太	京都大	9.38.69
4	古川 和紀	名古屋大	9.41.62
5	和田 健志	名古屋大	9.42.03
6	飯尾 健太郎	大阪大	9.50.56

4×100mR

1	京都大学	41.63
2	九州大学	42.00
3	東北大学	42.52
4	名古屋大学	42.88
5	北海道大学	43.18
	大阪大学	失格
	東京大学	失格

4×400mR

1	京都大学	3.21.11
----------	-------------	----------------

2	東北大学		3.21.46	4	村松 蒼介	名古屋大	14m25
3	東京大学		3.21.47	5	松崎 通弘	大阪大	14m21
4	九州大学		3.21.98	6	岡部 大輝	東北大	14m10
5	大阪大学		3.22.02	砲丸投			
6	名古屋大学		3.24.24	1	柳澤 邦彦	東北大	14m09
7	北海道大学		3.25.63	2	福井 康大	大阪大	11m77
走高跳				3	佐々木 駿	東京大	11m55
1	山田 健太郎	東北大	1m98	4	福井 大輝	名古屋大	11m21
2	工藤 健太	東京大	1m95	5	山本 裕太	京都大	10m96
2	岡部 大輝	東北大	1m95	6	宮野 涼至	東京大	10m91
4	木村 克也	北海道大	1m95	円盤投			
4	菅原 知紘	京都大	1m95	1	柳澤 邦彦	東北大	47m17
6	田谷野 義季	大阪大	1m85	2	佐々木 駿	東京大	42m62
棒高跳				3	片山 卓也	東京大	35m68
1	高橋 理寛	東北大	4m50	4	福井 大輝	名古屋大	35m68
2	上野 隆治	東京大	4m40	5	中澤 密	大阪大	35m48
3	小谷 優人	名古屋大	4m30	6	原 湖楠	東京大	35m01
4	細田 真広	大阪大	4m30	ハンマー投			
5	佐藤 裕貴	東北大	4m20	1	武藤 将大	大阪大	48m37
6	清水 宏幸	京都大	4m00	2	柳澤 邦彦	東北大	42m85
6	若原 拓也	北海道大	4m00	3	崎 勘太郎	大阪大	41m98
走幅跳				4	今村 昌平	東京大	40m26
1	西村 優汰	京都大	7m65	5	八柳 暁	東北大	39m27
2	安井 令	東北大	7m10	6	千葉 伸宏	東京大	38m79
3	渡辺 祥	大阪大	7m08	やり投			
4	西田 拓展	大阪大	7m06	1	神田 直仁	大阪大	60m89
5	飯島 靖成	東京大	7m03	2	中澤 密	大阪大	60m37
6	山田 健太郎	京都大	6m80	3	伊藤 泰彬	東北大	57m80
三段跳				4	目野 泰平	九州大	56m50
1	中野 翔	大阪大	14m89	5	高橋 航	東北大	54m48
2	西村 優汰	京都大	14m75	6	千葉 伸宏	東京大	54m41
3	田中 悠貴	東北大	14m32				

七大戦女子記録

100m(+2.3)

1	中山 なつみ	東北大	12.77
2	釜谷 美翔子	京都大	12.88
3	牛山 綾	大阪大	12.93
4	安藤 江里	九州大	13.05

400m

1	一瀬 輪子	北海道大	59.03
2	牛山 綾	大阪大	59.56
3	釜谷 美翔子	京都大	60.22
4	上田 奈央子	九州大	60.93

800m

1	岩橋 優	京都大	2.14.78
2	鈴木 亜由子	名古屋大	2.17.09
3	加奈山 憲代	京都大	2.20.69
4	鈴木 絢子	東北大	2.21.11

3000m

1	鈴木 亜由子	名古屋大	9.35.90
2	及川 まりや	東北大	10.06.10
3	鈴木 絢子	東北大	10.11.62
4	田中 友理	京都大	10.15.84

4×100mR

1	名古屋大	50.28
2	大阪大	50.37
3	京都大	50.81
4	北海道大	51.04
5	九州大	51.07
6	東北大	51.49
7	東京大	51.76

走高跳

1	丹家 里枝	東京大	1m53
2	川守田 優	大阪大	1m50
2	安部 瑛里奈	東北大	1m50
2	平松 美咲	北海道大	1m50

走幅跳

1	森 美聡	名古屋大	5m40
2	中島 美咲	東京大	5m36
3	馬越 茉鈴	大阪大	5m22
4	中山 なつみ	東北大	5m21

砲丸投

1	武田 有希子	東京大	10m87
2	小西 由夏	大阪大	8m84
3	小林 愛海	北海道大	8m54
4	良知 優奈	九州大	8m52

七大戦オープン結果

▼100m

石田 真也	11.07	+1.3	
林 大祐	11.21	+1.8	
谷口 裕幸	11.23	+1.3	
辻 智彦	11.27	1.3	
藤澤 健斗	11.37	+2.8	
森 裕貴	11.39	±0.0	
前田 靖朋	11.52	+2.8	
佐藤 翔士	11.65	+2.8	
山田 諒	11.73	+1.3	
栗田 京典	11.90	+0.8	PB
西田 光治	11.90	+5.6	
川本 雅人	11.94	+0.8	
鈴木 將太	12.23	+1.2	
矢川 勝太	12.32	+2.6	
大橋 正義	12.47	+2.6	
近藤 耕平	12.64	+1.2	
扇澤 剛志	12.76	+1.2	

▼400m

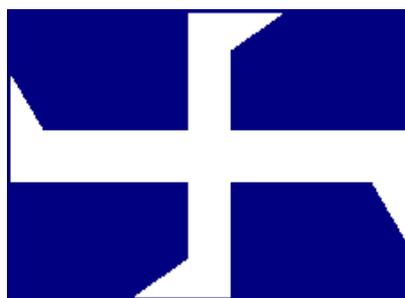
佐藤 翔士	51.81		
横山 高広	52.43		CB
市川 和也	52.56		
吉川 慶	52.96		
長崎 裕貴	53.73		PB
佐藤 優斗	55.66		
梶原 諒一	56.21		
木原 亮	56.47		
猪原 章	56.65		
豊本 竜希	58.34		♪
橋本 匠平	61.98		
鈴木 將太	62.20		
近藤 耕平	64.25		

▼1500m

小山 俊之	3.56.38		
山田 唯	4.02.93		
岡本 英也	4.07.85		
前田 達朗	4.12.18		
水谷 浩人	4.13.45		

櫻井 研吾	4.14.72		
新田 一樹	4.15.58		
下迫田啓太	4.16.28		
岡野 椋介	4.16.32		CB
河本 聡	4.19.96		PB
浅井 健介	4.21.20		
寶 雄也	4.22.01		CB
松葉 悠剛	4.24.23		
西藤 裕章	4.24.36		
古藺 智也	4.26.54		
神埜 勝	4.29.18		
岡本 和晃	4.32.73		♪
小林 啓人	4.33.08		
西田 峻	4.33.92		CB
大海慎之介	4.38.15		♪
橋本 宏平	4.40.23		
白石 晃將	4.43.88		
寶徳 真大	4.44.34		
堀井 大佑	4.48.34		
内田 健弥	4.51.37		
村瀬 颯登	4.53.31		♪
大畑 耕治	5.23.27		♪
近藤 耕平	5.26.09		
鈴木 將太	5.54.22		
▼5000m			
小山 俊之	15.37.14		
櫻井 研吾	16.20.47		
新田 一樹	16.29.23		
山田 唯	16.40.42		
小林 啓人	17.24.91		
阿部 健一	17.33.47		
南日雄太郎	17.35.17		♪
近藤 耕平	20.35.16		
▼5000mW			
樋口 裕磨	24.33.03		PB⑦
永田 和寛	24.51.16		
西田 昌弘	27.46.97		
多田 稜平	28.50.17		PB⑩
夫津木廣太	30.43.54		⑬
近藤 耕平	32.03.22		PB⑭

鈴木 將太	32.03.22		⑮	佐藤(翔)-櫻井(研)- 前田(靖)-内田	3.43.03	
▼走幅跳						
林 大祐	6.41	+1.5	CB	小西-山瀬-	3.43.90	
田中 智章	5.74	+4.6		谷口-前田(峰)		
近藤 耕平	5.28	+2.1		栗田-寶徳-	3.44.05	
扇澤 剛志	5.27	+2.1	♪	西田(光)-川本		
鈴木 將太	5.11	+1.6		藤澤-堀田-	3.56.97	
谷口 裕幸	NM			近藤(耕)-橋本(匠)		
夫津木廣太	NM			▽1500m		
▼やり投				加藤 彩季	5.13.07	CB
矢川 勝太	49.39			泊 はつひ	5.35.30	CB
扇澤 剛志	29.54			森山友紀子	5.37.71	
櫻井 研吾	29.02			三村 有葉	5.42.74	
森田 悠也	28.13			▽4×400mR		
近藤 耕平	26.39		PB	泊-加藤-森山-三村	4.54.46	
前田 峰尚	NM					
鈴木 將太	NM					
▼4×400mR						
山田(唯)-小山-	3.37.72					
萩生-吉田						
河本-浅井-	3.41.86					
神埜-四辻						



蒼穹ニュース 平成 24 年度 第 4 号

平成 24 年 8 月 16 日 発行

発行所: 京都大学体育会陸上競技部

編集者: 鈴木將太・橋本宏平・夫津木廣大(副務)

特別協力: 樋口裕磨・山口昌太(学連員)

吉川慶(記録係)・岡田洋(HP 係)

写真担当: 西田光治・西田峻・日浦幹

陸上競技部 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/index.html>

陸上部記録 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/kiroku/index.html>

関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>

メールアドレス 101hawww.9@ma.nasicnet.com(橋本)